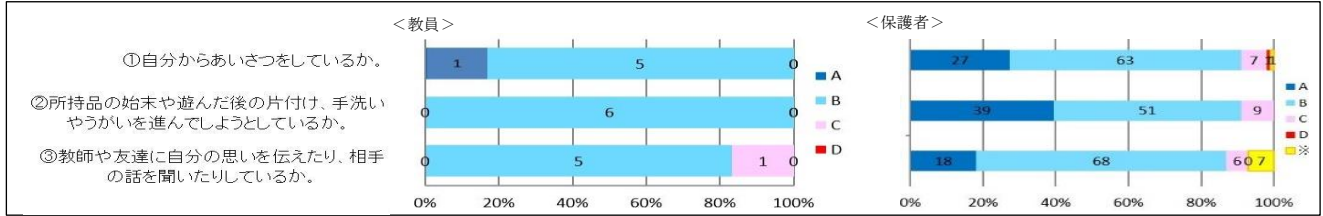


園名：中央区立有馬幼稚園 所在地：中央区立日本橋蛸殻町2-10-23
 園長名：箕輪 恵美 園児数：121名 学級数：6学級 教員数：9名 職員数：10名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

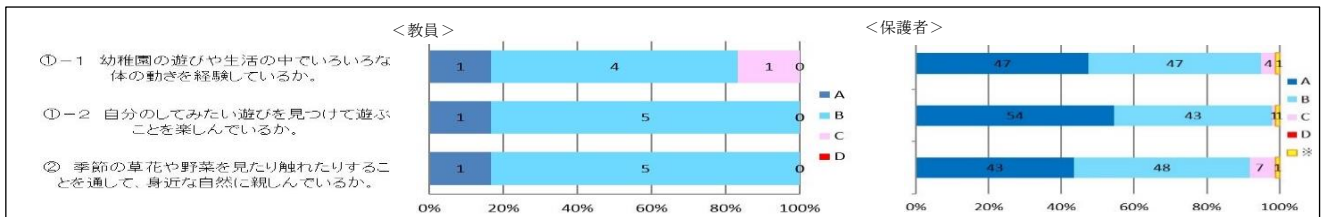
評価：A=十分達成している B=達成している C=改善を要する D=緊急に改善を要する ※=わからない

重点目標1 自分で考え行動する力を育む



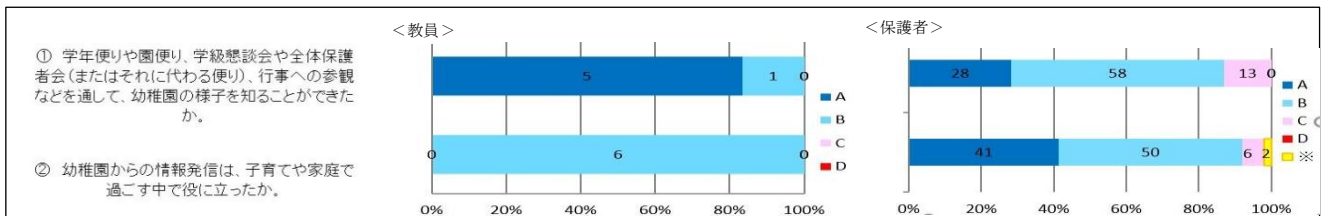
評価項目①の「挨拶」は、保護者の約9割、教員は全員がプラス評価だった。挨拶の大切さを園便りの中で取り上げたこと、教職員が挨拶の大切さを意識して実践してきたことの成果と考える。挨拶は、大人が日常的に行う姿を子どもが間近に見ることでよい影響を受けるものなので、園でも家庭でも大人がそのことを自覚して行動できるよう挨拶の大切さを折に触れて伝え、更なる改善を図りたい。評価項目②の「片付けや手洗い等」も、保護者の約9割、教員は全員がプラス評価だった。手洗いとうがいはコロナ禍が続く中で入園前から身に付いている子どもが多い。片付けは個人差が大きいため、家庭と協力しながら身の周りのことを進んで行う力を育てていく。評価項目③の「伝える・聞く」は、保護者の1割ほどが「分からない」と回答していた。目に見えにくいものではあるが、幼児期に体験させたいことのひとつなので、園内での子どもたちの様子、年少・年中・年長と体験を積み重ねていく様子を、学年便りやルクミーで分かりやすく伝える。

重点目標2 たくましい心と体を育む



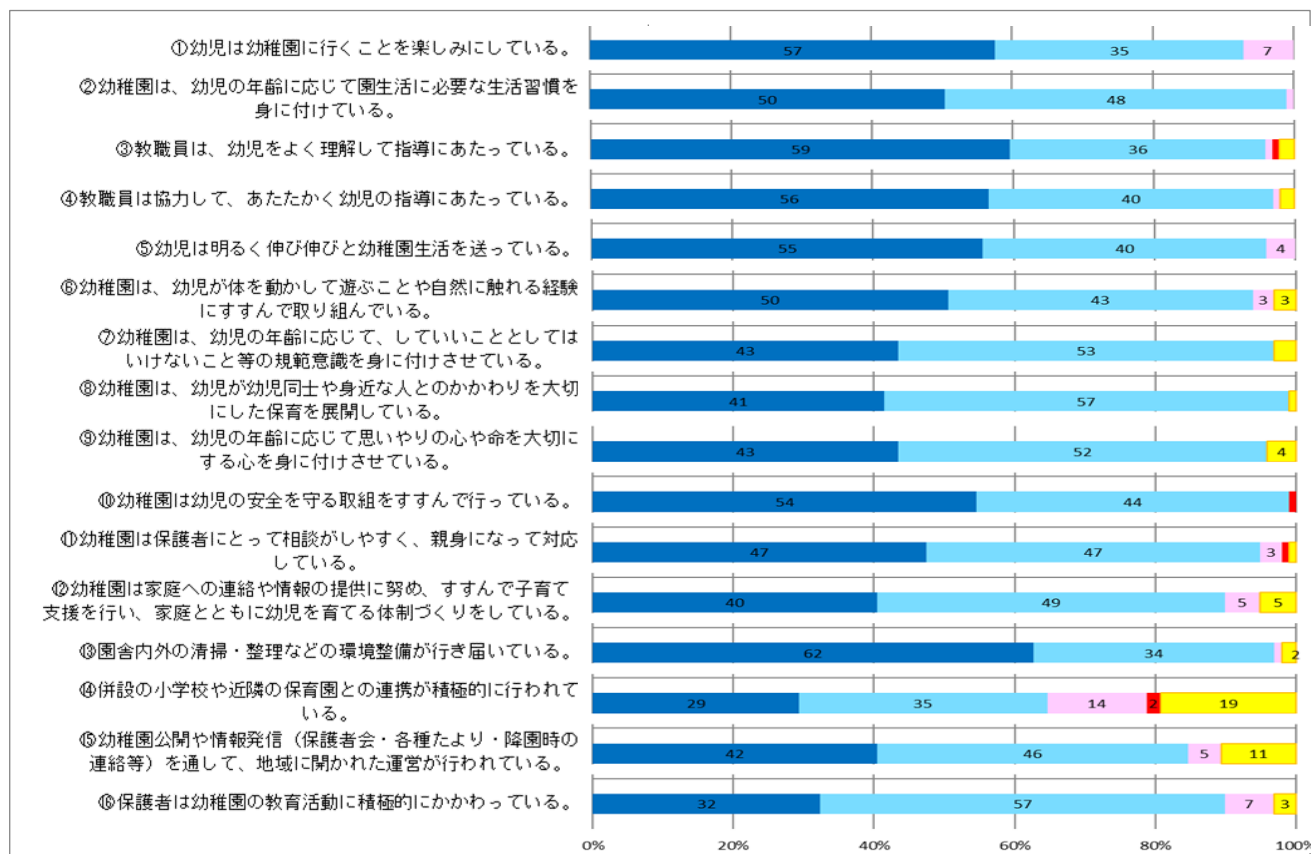
評価項目①の「いろいろな体の動き」は、保護者の9割強がプラス評価だった。教員が園内にある運動道具の使い方を学ぶ機会を設けたり、外部講師を招いて教えてもらったりしたことをその後の遊びに生かし、子どもたちが楽しんでいる様子を折に触れて伝えたことによると考える。評価項目②の「してみたい遊びを楽しむ」は、保護者はほぼ全員、教員は全員がプラス評価だった。この項目は幼児期に主体性を育むことに直結するものなので、今後も着実に取り組んでいく。評価項目③の「身近な自然に親しむ」は、保護者は約9割、教員は全員がプラス評価だった。収穫物を家庭に持ち帰る・園内で簡単な調理をして食べるなどの活動が身近な自然に親しむきっかけになり、栽培した野菜や花を登降園時に保護者も見れるようにしたことで取り組みの様子が伝わったと思われる。今後も身近な自然との触れ合いの中で、子どもたちが驚きや感動を体験できるようにしていく。

重点目標3 幼稚園と保護者の連携を進める



評価項目①の「便りや保護者会等で園の様子を知ることができたか」は、保護者は8割強のプラス評価だった。大きな行事を学年または学級毎に、園公開は密を避けるために毎回半数の家庭が参観する形で開催し、子どもたちの姿を直接見ていただけたこと、また、学年便りでその時期の様子を詳しく伝えたことがこの評価につながったと考える。評価項目②の「必要な連絡を取り合うことができたか」は、保護者は約9割、教員は全員がプラス評価だった。今年度6月から運用が始まった「ルクミー」を使った情報発信については、負担にならない範囲でもう少し頻度が高いとうれしい、という声が寄せられた。3学期に入り、日頃の園内の様子に加え、これまで板書で周知していたような内容もルクミーで発信するようにしており、今後も活用を工夫していく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況 <保護者の全体評価>



- 16項目中11項目は9割以上のプラス評価で、中でも②の生活習慣、⑧の人とのかわり、⑩の安全を守る取り組みは高評価であった。この結果を励みに、次年度の教育の計画・実践に生かしていく。
- 項目⑭は「分からない」が約2割、プラス評価が6.5割、マイナス評価が約1.5割であった。コロナ禍で有馬小学校児童や浜町保育園年長との交流活動を実現することが難しいこと、今年度は有馬小学校の児童の作品を見に行く（年長）、小学校の休み時間に児童を誘いお正月遊びを一緒に楽しむ（年長・年中）、近隣の福祉施設との交流（年長）を実施したがその様子の周知が十分ではなかったことが背景にあると考える。今後は、ルクミーを活用して交流の様子を全保護者に知らせる・次年度は実際に顔を合わせての交流を計画・実現することに取り組み、改善を図る。
- 今年度は初めてインターネット経由の園評価だったが、記述欄には、一人一人の成長を促し遊びや季節の遊びを取り入れていること、子どもたちの健康と安全を守りつつ一人一人を尊重する教育を行っていることに感謝の言葉が複数寄せられた。保護者の皆様からのお声を励みに、今後もよりよい教育を目指したい。
- 記述欄には、ルクミーの発信頻度を増やしてほしいという希望も複数寄せられた。「重点目標3」に記載のとおり、改善を図る。また、日本語を母語としない保護者に対するサポートの仕組みを作れると心強いのでは、という意見も寄せられた。学校評議員・外部評価委員からは「保護者同士の助け合いによって、そのようなサポートができる」とよい」という意見をいただいている。

<教員の全体評価>

- 教員は専門的な内容で多岐にわたる評価項目で今年度の園の教育活動を評価したが、「保健管理」「安全指導」「特別支援教育」「組織運営」「教育目標・学校評価」「情報提供」「保護者、地域住民との連携」「教育環境の整備」は全員がプラス評価であった。今年度手応えがあった取組を、次年度にも継続していく。
- 改善の必要がある、という回答が複数寄せられた項目と、その改善策は、以下の通りである。
「教育課程等の状況」→学校間・保幼小の連携・交流を、次年度は実動できることを前提に計画する。
教員一人一人が自らの言動を振り返る機会をもち、人権感覚に磨きをかける。
「研修」→園内で教員同士が学び合う機会をつくることのできるよう工夫する。
「特色ある教育活動」→幼児期の体験が小学校の学習・生活のどこにつながるか、連携を通して理解を深める。

3 今後の改善方策

- 今年度の反省評価・手応えを来年度の計画や教育内容に着実に反映させる。(反映したことの実践と振り返り)
- 教員一人ひとりが学び続ける機会を保障し、的確な幼児理解と一人一人に合わせた援助、幼児の興味や発達を踏まえた環境や活動の選択や準備ができるようにする。(研究保育と事後検証、園内・園外での積極的な研修)
- 園からの情報発信の仕方を工夫する。(ルクミーと手紙の使い分け、ルクミーの発信頻度の向上)